

研究タイトル:

戦国時代の洪水対策都市の解明



氏名: 野々村善民 / NONOMURA Yoshitami E-mail: nonomura@fukui-nct.ac.jp

職名: 教授 学位: 博士(工学)

所属学会・協会: 日本建築学会

キーワード: 風環境, 新エネルギー, 都市洪水

技術相談
提供可能技術: 流体数値シミュレーション (iRIC, STREAM)

研究内容:

戦国大名朝倉氏の城下町一乗谷は山に囲まれ、水害が生じやすい福井市の一乗谷川沿いの谷間にある。一乗谷は谷間の城下町であるため、水害に見舞われやすく、近年でも平成 16 年の福井豪雨で大きな被害を受けている。過去の水害の状況を知る手がかりとして、一連の遺跡調査の中で、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(以下、資料館)は 2019 年に戦国時代の一乗谷川(以下、旧一乗谷川)の河川断面を示す遺構を発見した。

資料館が保有する遺跡調査資料から、旧一乗谷川における外水氾濫は 1573 年の朝倉氏滅亡直後に 1 度あったことがわかった。これを裏付ける資料として、旧一乗谷川の河川断面の主要寸法が明らかになった。これまでの遺跡調査資料のみでは、旧一乗谷川で生じた氾濫時の降水量などの気象条件は不明であった。

そこで、本研究は旧一乗谷川流域の 3D 地形モデル、2 種類の河川氾濫シミュレーションと現在の気象データを用いて、1573 年の朝倉氏滅亡直後に発生した氾濫時の 1 時間降水量を予測し、その再現期間を算出することを目的とする。

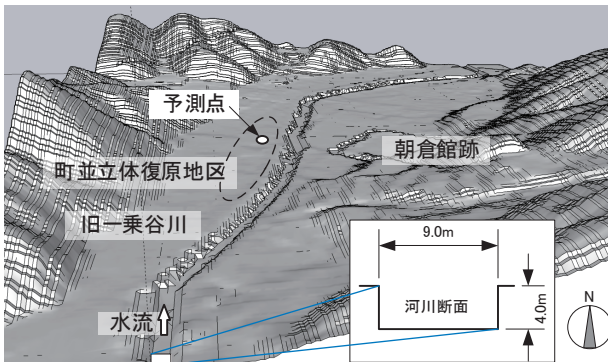


図1 一乗谷川流域(3D モデル)

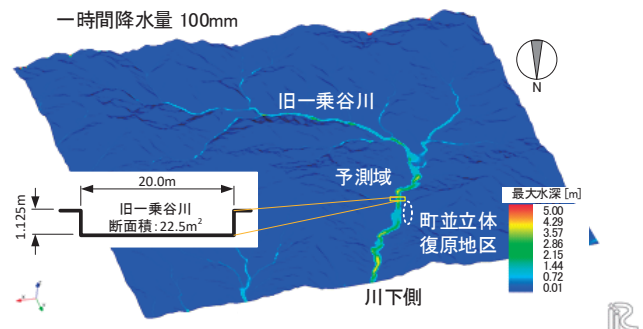


図2 一乗谷川の最大水深分布

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
流体数値シミュレーション	